

DX実現までは長い道のりです。私たちがお客様のDX実現に寄り添い続けます！

# さあDXをはじめましょう！ まずはデジタイゼーションからご提案させていただきます！

DXは大企業のものだけではなく、「企業が目指してきた生産性の向上をデータとデジタル技術を活用し加速的に進めていき企業変革を実現すること」です。何よりも大切なのは、企業のデータであり、ITはそのデータを活用するためのツールにすぎません。お客様のデータのあり方に着目しながら、私たちはDX推進に伴走いたします。



DX実現までのフェーズには、デジタイゼーションからデジタルライゼーションというプロセスがあります。今回はデジタイゼーションについて詳しくご説明いたします。

## デジタイゼーションと デジタルライゼーションってなんだっけ？

デジタイゼーションや  
デジタルライゼーションって、  
何をすればよいの？



デジタイゼーションとは、情報をデジタル化し作業のデジタル化を可能にすることです。つまりコンピュータやスマホで表示できたり、入力できたりすることです。また、そのデータを共有し、発信や分析できるフェーズです。

デジタルライゼーションとは、ビジネスプロセスをデジタル化し、大切なデータを必要に応じて誰でもどこでも有用に活用し、企業の効率性や生産性を高めていくことです。つまりビジネスモデルそのものが変革し始めている段階です。

しつこいですが…もう少し具体的にデジタイゼーションとデジタルライゼーションを解説します。

業務上や実務上のデジタイゼーションとデジタルライゼーションの区別は、大きな問題ではありません。データの活用段階が重要です。

データが可視化出来ているのか、共有できているのか、組織で活用が出来ているのか、企業成長に役立っているのか、データファーストの視点が大切です。ITシステムファーストはNGです。

- ◆ デジタイゼーションのゴールは、必要な情報のデジタル化と作業のデジタル化です。デジタル化によって効率化やコスト削減をすすめます。
- ◆ デジタルライゼーションのゴールは、ビジネスプロセスのデジタル化を経由して、ビジネスモデルを変革することになります。結果、収益構造が変わります。

いよいよ、データドリブン経営のはじまり、DXのはじまりです。デジタル化された「正しい」データを基に、経営、業務、仕事の意思決定を行い、企業にとって収益の高いプロセスを導き出すこととなります。結果、新しいビジネスモデルが発想されることとなります。



## 実際の実務とアナログ処理の課題キーワード整理

実際の実務と業務の一例	アナログ実務の課題キーワード
<p>社内外の情報・文書・資料・書類やり取り</p>	紙・ハンコ・封筒等消耗品・郵送・郵便代・コピー・FAX・複製・機密管理・保管場所・キャビネット・往復処理・重複処理・作業過多
<p>社内外のコミュニケーションや予定管理</p>	対面・電話・会話や立ち話・手書き伝言メモ・ホワイトボード・模造紙の貼り紙・発信者の偏り・部門障壁・上下関係
<p>社内外の会議・ミーティング・研修</p>	対面・全員の予定・会議室・移動時間とコスト・資料配布・議事録・長時間化・資料作成負荷・事前の情報共有
<p>営業・業務日報の作成、案件や商談履歴、お客様の名刺・メールアドレス等、ID管理</p>	備忘録・単なる日誌と報告・ネガティブ情報未発信・リアルタイム共有不可・作業過多・残業・非可視化・個人資産と管理・機密保持・予定と成果
<p>訪問営業活動やカタログパンフレット作成等のプロモーション活動</p>	対面・訪問件数・移動と商談時間・移動コスト・アポイント・履歴管理・紙カタログ・スキル格差・お客様の時間・面談不可
<p>稟議や各種報告・申請業務・入出金業務・勤怠管理業務・社会保険関連</p>	手書きの手間・所要時間・漏れ・抜け・遅延・透明性・書類管理と履歴確認・デスクワーク・紙・ハンコ・不在時

### その効果は？

デジタイゼーション効果は、情報がデジタル化されることで**信頼性・利便性・実用性**が飛躍的に向上します。さらにデジタル化された情報を扱うためデジタル技術を活用し作業のデジタル化を可能にし、**効率性・機能性・合理性**を向上させ**時間と労力、コスト削減**も同時進行します。

### デジタイゼーションへ向けて

- ▶ まずは情報をデジタルデータに転換していくこと！
- ▶ 左側の事例の実務でアナログ情報として処理されているものは何でしょうか？
- ▶ ボトルネックになっているアナログ情報を精査してみましょう。
- ▶ アナログデータのデジタル化が見えてくれば、作業のデジタル化ツールも見えてきます。
- ▶ まずはデジタル化する情報の特定が最優先です。
- ▶ 左側の事例キーワードを参考に、一緒に考えさせてください。

STEP UP!!



デジタイゼーションとデジタルライゼーションをご理解いただけたと思います。どちらのフェーズも同様ですが、一番重要で、かつ基盤にもなるのは「デジタル化された情報=データ」です！データをどう扱うのか？（管理）仕事や業務、経営そのものにどう活かすのか？（ドリブン）それこそがDXロードマップの1丁目1番地です。

# デジタル化 Check Point!

## デジタルデータ

- 社内でデジタルデータ化するべき情報の特定ができています
- デジタルデータ化するべき情報のおおよそ何%がデジタルになっているか把握している
- デジタルデータは社内で共有、フロー化できる
- 類似データ作成の重複作業は無く、正確性・安全性・整合性が担保されている

## 営業活動・マーケティング

- お客様への営業は、訪問が基本だがオンライン商談も利用し始めている
- お客様の名刺やIDは、個人管理は無く、デジタルデータとして管理している
- WEBサイトは定期的に更新をおこない、市場からのアクセスをチェックしている
- メルマガや動画、商品カタログのパンフレット等デジタルコンテンツ活用している

## 基幹システム

- 会計・給与・人事労務・販売管理等の基幹業務はすべてシステム化されている
- 基幹システムがERP(統合型)になっている
- 「2025年の崖」を理解しており対策も検討済み
- 基幹システムをクラウド化しておりスタッフのリモートワークが可能

## コミュニケーション

- 対面(集合)会議や研修より、WEB会議(研修)のほうが多数
- 社員全員にメールアドレスが付与されている
- ビジネスチャットでコミュニケーションの迅速化やチームのコラボレーションを高めている
- グループウェアやダッシュボードを活用し情報の検索・閲覧を一元管理している

## セキュリティ

- 多層防御(入口対策+内部対策+出口対策)を施しリスクを最小化している
- 社内セキュリティ意識を高めるため、セキュリティ教育を定期的に行っている
- データの正確性、安全性、整合性担保のため定期バックアップを行っている
- ソフトウェアの最新版アップデートは管理・監視できている

## ハードウェア・インフラ

- 社内の情報機器(ハードウェア)が資産として管理されている
- リモートワークに対応できるよう、社外から利用できるシステム運用になっている
- ハブやルーター等のネットワーク機器、配線ケーブルを定期的にメンテナンスしている
- サーバーやオンラインストレージ等、データをセキュアに管理できる環境になっている

# DXロードマップ作成の手引き①

「デジタル化Check」で、どの項目にご興味がありましたか？  
お客様が優先している経営課題や業務課題に照らし合わせてみてください。  
より顧客に近い仕事をFront Office(Work)と呼びます。より社内業務に近い仕事をBack Office(Work)と呼びます。  
関心や課題はFront、Backどちらに多くありますでしょうか？  
まずはFrontとBackの優先順位を決めることが大切です。



## 最後に3つお聞かせください!

◎より具体的な業務課題を教えてください。

- Ex. ●WEBサイトの運用・更新・発信が出来ていない(Front)
- 取引先の名刺管理が出来ていない(Front)
- 営業活動やお客様との面談にWEB会議システムを利用していない(Front)
- 会計や販売、顧客のデータが統合されていない(Back)
- 請求書の送付・受領の業務フローがアナログ(Back)
- 勤務管理データが、紙とデジタルデータの混在(Back)

◎お答えいただいた業務課題の本質的要因は、データそのものに起因しますか？それともシステム未導入や運用が課題ですか？

- Ex. ●システムは導入しているが、データ化がうまくいっていない(信頼できるデータになっていない・分散している)
- データはあるのだがシステムが導入されていないので共有・活用できていない
- そもそもデジタルデータ化されていない
- 情報やデータの整理(5S→整理・整頓・清掃・ルール・清潔)に課題がある
- アナログ業務とデジタル業務の混在でフローが途切れてしまっている
- ハードウェア等インフラストラクチャーのアップデートとリプレイスに課題がある

◎Front OfficeとBack Office業務のデジタル化、どちらが優先だとお考えですか？

私たちは、お客様のデジタル化推進に伴走し続けます！是非一緒にデジタル化するべき情報と業務の洗い出しをすすみましょう。

株式会社六甲商会